

全法連事務局 御中  
(mail@zenkokuhojinkai.or.jp)

## 2. 法人会版健康経営宣言書「青年部会」用

(2021年6月15日現在)

単位会名（所属県連名）	鹿屋肝属法人会	(鹿児島県連)
部会長 氏名	大久保 浩司	
部会長 携帯番号		
部会長 メールアドレス		
単位会情報	事務局所在地	
	担当者(事務局員)名	上園 輝典
	TEL	FAX
	メールアドレス	
	部会員数	71名

### 健康づくりの取組目標・取組内容

健康経営宣言 (目標)	健康経営宣言100%達成「鹿屋肝属モデル」を構築 全会員企業に対し、健康経営がどれだけ大切な理解させ、「健康経営ってなに?」「ハードルが高そう」「それをやって意味があるの?」などのマイナスイメージからどのようにして宣言率100%まで導いたかをまとめ上げ「鹿屋肝属モデル」としての書面化と宣言率100%の継続を目指す。
予定している活動の カテゴリーを 選定してください。  1つ以上に○を つけてください。	<p>①フィジカル（身体的）部門…運動や身体的な改善内容等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・会議前ストレッチの励行</li><li>・「withコロナ」に対応した例会や委員会の開催</li><li>・会員が率先して取り組み、各企業の手本となる健康づくり</li></ul> <p>②メンタル（精神的）部門…社員のメンタルヘルス対策や職場環境改善等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・会員企業に対するアドバイスや、フォローアップの実施</li><li>・会員企業の社員も巻き込んだスキルアップセミナーの開催</li><li>・新規入会者には入会前に健康経営のレクチャーを行って理解を促す</li></ul> <p>③ソーシャル（社会的）部門…地域貢献活動やボランティア活動等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・親会、女性部会にも健康経営の必要性を伝え、一丸となって取り組む</li><li>・法人会の外部に対しても健康経営を普及する活動（事例発表など）</li><li>・地域イベントへの積極的なボランティア参加</li></ul>

(下記の該当項目にチェックを入れてください。)

全法連ホームページ及び内部資料に単位会名を掲載することを承諾します。

上記のとおり申し込みます。

2021年6月15日

単位会名：(公社)鹿屋肝属法人会青年部会

(押印は不要です。) 部会長名：大久保 浩司

2020年12月1日 初版

2021年6月15日 改訂

# 健康経営大賞 2025in 山梨大会 青年部会部門 エントリーシート

提出日：2025年7月24日／鹿児島・鹿屋肝属法人会

申請者名（ヨミ）	赤瀬川 威（アカセガワ タケシ）
申請者の役職名	部会長
活動のタイトル	健康経営大賞受賞後のその後
活動期間（年月日）	44805 ~ 45869
参加人数	82名
活動内容について	<p>健康経営地域モデルとして確固たる地位を築いており、「学び→実践→共有」の循環を繰り返しています。これまでの外部講師を招いての例会や講演会において「人」・「組織」において多様性（LGBTQ+）や心理的安全性が必要とされる現況を学び、個々のヘルスプロモーションの重要性についても実践的演習としてイベント【選択制スポーツイベント・ウォーキング大会・登山・体力測定】で体験しました。</p> <p>健康経営の啓蒙・啓発活動を継続しつつ、新たに心身の健康を日常生活に浸透・意識させるため、国立大学法人鹿屋体育大学、鹿児島県法人会と協働で「法青体操」を制作し、例会等で実施しています。今後、会員や会員企業の健康指標等を可視化するためのデータ収集を外部と連携して実施する計画で活動中です</p>
アピールポイント	<p>身体的健康だけでなく、多様性・心理的安全性への理解促進にも注力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●多様性（LGBTQ+や介護介助者・身体障がい者本人や介助者、多様な方が一緒に勤務していることや家族にいることを学ぶ）</li> <li>●心理的安全性（色々の意見があり発言を出来やすい環境作り・メンタルケアなど学ぶ）</li> </ul> <p>体験型の健康経営を実践し、現在、鹿屋体育大学との連携により科学的評価にも着手しています。オリジナル体操の制作など、現場で継続できる独自コンテンツも展開中で、地域のロールモデルとなる健康経営の推進体制を築いています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●選択制スポーツイベント（フットサル・ボウリング・ヨガ・ボクササイズ・体幹トレーニング・ソフトバーボール・サウナ、参加したい競技をそれぞれが選択）</li> <li>●ウォーキング大会（会員全員で目標50万歩）</li> <li>●登山・キャンプなどのイベント参加</li> <li>●法青会員 LINEへ配信（週3回、数分の運動動画の配信）</li> <li>●地元鹿屋体育大学と連携</li> </ul>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●色々な競技やイベントを開催し参加することで、その結果、普段会話の少なかった会員と雑談が生まれ、その後の法青会活動に心理的安全性の場が生まれたと考えます。</li> <li>●雑談の大切さを学び、色々なイベントを自社で行う会員企業も出てきました。</li> <li>●健康経営って分からない会員が多かったが、毎年、年2回の健康経営月例会を開催したことにより、会員へ周知が確実に行われ、健康経営って何？と問う会員は0になった。</li> <li>●健康経営宣言書提出 健康経営プロジェクトチームを常設したことで、新入会員へサポート体制が確立されアドバイスを行ったことで、提出率100%を毎年キープしている。</li> </ul>

# 健康経営大賞 2025in 山梨大会 青年部会部門 エントリーシート

提出日：2025年7月24日／鹿児島・鹿屋肝属法人会

財政健全化への貢献度	会員の健康経営推進により、会員企業従業員の健康保持・増進と労働生産性の向上を図ってきました。参加・体験型イベントや大学との連携といった活動は、疾病リスクの予防や休業率低下の促進にもつながっていると考えます。これらの継続的な取組みにより、会員企業単位での医療費・労務費への抑制に貢献するとともに、長期的には地域全体の医療・介護コストや社会保障支出の抑制につながり、結果として財政健全化に寄与するものと考えます。
部会員企業への浸透度	健康経営宣言書の提出率は100%を継続しており、部会で学び体験したことを、部会会員企業で実践できる活動を展開し、一部企業では運動習慣や日常生活にも変化があったとの声もあり、本部会での健康経営活動の啓蒙・啓発活動を継続したことが会員企業にも浸透し始めていると考えます。